

# メジロの視力表？

信州口腔外科インプラントセンター 北村 豊



庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

庭の栗の枝につき刺したリンゴや、吊るしたリンゴ、そしてヒエやアワの餌には、毎日沢山の鳥がやって来てくれる。三密を避けるようにいわれる昨今だが、鳥の世界は自由で、一密(リンゴ)？を求めてやってきて、ソーシャルディスタンスゼロになることも多い。

わたくしの家で二泊三日、三食付きで療養して回復した。手の中に抱いてこのメジロをごく間近にわくわくしながら観察するのは初めての経験だったが、容姿端麗で才色兼備な美しい鳥だとつくづく思った。

この鳥の名前の由来ともされる眼球の周囲の「白いアイリング」は、眼を中心以外に伸びる花卉のような、人によっては刺繍のような繊細な純白の羽毛で縁どりされているのに気付く。

しかし、このアイリングがくちばしに近い前方で一部切れていることをご存知だろうか？そのアイリングの形状は、皆さんにも眼科などで馴染みの、「大小の円形の一部が途切れた視力表」の「ランドルト環」をイメージさせる形状をしている。

日本で観察できる野鳥の中で、なかなり小形の種類に入るメジロのアイリングの前方部分が途切れていること



に気づくことは、裸眼もしくは矯正視力をもった「日本人」でも野鳥観察のための双眼鏡や望遠鏡を使わなければほとんど不可能と思われる。しかし、アフリカのタンザニアに暮らすバツサ族には視力11・0という驚異の記録を持つ人もいるそうである。その視力とは55m先から1・45ミリのランドルト環の狭い切れ目の方向が確認できるといいう、驚異的な視力であるのだ！

保護した時に撮影したメジロの写真から推定すると、その切れ目は実物で1ミ位とさらに狭く、タンザニアの視力11・0の人ならば、30m位離れたところからでも、この小さな野鳥のメジロの「アイリング」の前方が切れていることを容易に確認できるのではないだろうか……と思っている。

保護した時に撮影したメジロの写真から推定すると、その切れ目は実物で1ミ位とさらに狭く、タンザニアの視力11・0の人ならば、30m位離れたところからでも、この小さな野鳥のメジロの「アイリング」の前方が切れていることを容易に確認できるのではないだろうか……と思っている。

しかし、タンザニアの都市部で生活する人では、視力は1・0前後となるそうである。いわゆる「都市化や文化的生活で失くしていくもの」には視力の低下のみならず、「数多くの有形無形の大切なものを失っていく環境」にほとんどの日本人が置かれていることにも気付いておくことは肝要であると考えられる。